

研究テーマ:「基本文を確実に身につけ書けるようになる指導の工夫」

所属 高知市立朝倉中学校

氏名 豊永玲子

R G JH1

1. 研究の背景

現在、中学 3 年生 5 クラス中 4 クラスの英語を担当している。この学年は 1 年生より持ちあがって受け持っている学年である。1 年時より声を出して音読させる指導に力を入れてきた。3 年になっても大きな声で音読している生徒が多い。しかし、「書くこと」の能力が今一步である。言えるが、正しく書けないのである。正確に板書し、教科書の本文を写すことはできるが、自分で英文を作り、書くことができないのである。観点別評価では「表現」の項目が低く、入試を控えた今、英文や単語が正確に覚えられず、「書くこと」が苦手な生徒が多い。

2. リサーチクエスト

「基本文を確実に身につけ書けるようになる指導の工夫」について

*3 年時の教科書「NEW HORIZON ENGLISH COURSE 3」にあるターゲットセンテンスを暗記し、ディクテーションできる。

3. 予備調査

3 年ほど前、基本文を覚えられない、書けない生徒を何とかしようと授業開始 5 分間ほど、教科書に出てくる基本文を一行だけの Dictation Test を毎時間行った。当初は必死になって覚えようとする生徒も見られたが、評価と関係ないと知り、また生徒同士で確認をさせるだけだったので、だんだんと惰性化してしまい、あまり生徒には力がつかなかったような結果に終わった。この失敗を生かし、もう一度、生徒に基本文の重要性を理解させ、書けるような指導方法を考え、実施してみたい。

4. 仮説の設定

以前、基本文の Dictation Test を行ったが、定着せず書けるようになるまでには至らなかった。「聞いて耳から覚える」ことをせずに、「書く」という作業を行ったので、定着しなかったのではないかと。

「書く」前に十分な「聞く」と「読む」練習を行い暗記させた上で、「書く」という作業を行ったらもっと定着するのではないかと。先生がチェックをすることが必要。また定期テストには覚えた基本文を必ず出題し、できた満足感を与えることも大切ではないかと。

5. 計画の実践

Unit ごとに基本文を書いたワークシートを作成する。初めは自分自身のリーディングタイム短縮をめざす。つぎにペアになって、片方は日本語を言い、もう片方がその英語をできるだけスラスラ言えるまで練習する。最終的には、暗記するまでペア練習を行う。文中の単語を置き換えてペア練習を行う。次に、暗記した基本文の中から Dictation の練習を行う。Unit 終了時に Dictation Test を行う。また、定期テストにも基本文を使った問題を出題する。

6. 実践の結果

日頃の授業で、先生から生徒に質問してもなかなか恥ずかしがって答えられない生徒も、気の合う友達同士となると、活発にペア練習に励んでいた。しかし、どうしても相手を見つけられない生徒もあり、その場合は私がペア相手となった。タイムはほとんどの生徒が毎回短縮していった。の簡単な応用練習は1学期の中間研修時の反省点に基づき、少しでも応用力を付けてもらいたかったので取り入れてみた。ワークシートを離れて、自分なりに文章を作って楽しむ生徒もあり、観察していてももしろかった。Dictationは思ったより書ける生徒が多かった。単語、単語で聞き取っているのではなく、ある程度の語の塊を聞き取り書けるようになったと思う。最後のワークシートでは、少し単語を変えてDictationテストを行った。生徒に抵抗はなかったようだった。中間、期末の基本文を用いた問題の正解率はかなり高かった。約3分の2の生徒がその問題の満点近い点であった。

7. 結果の検証

生徒同士、活発な活動ができていた。席を離れて生徒が活動できるのが良いようだ。しかし、なかなかペアを見つけにくい生徒もあり、最後までペアが作りにくい生徒もいた。その場合は私が相手になるが、やはり対等の関係で練習するのが望ましいと思う。書けるようになるというのが最終目標だったが少し思惑がはずれ、基本文の暗記に重点を置いてしまったようだ。耳から覚えた文章は、一つの単語が聞き取れなくても、ある程度類推して、後から「こうじゃないかな?」と書くことができるようになる。語順を覚えるのはやはり、文章を覚えるのが王道であると思った。でも、書く練習が不足していると、単純なスペリングミスをやってしまう。単純だが覚えられない生徒が多いと感じた。

8. 成果と今後の課題

3年前のDictationの失敗は、十分な練習をせずに行ったので正解率も悪かった。そして点検も生徒にまかせきり...。十分な練習とインプットが無ければ、アウトプットは無いと伺ったが、確かにそうだと感じた。今回は前回の反省を生かし、練習時間を確保し、毎回点検をした。そしてDictationテストも練習したその後に行った。テストの点が良かったのが利いたのか、プリント学習の評判は、生徒のアンケートの結果、おおむね良好だったようだ。

反省点、および今後の課題として、ペアワークでは全員がペアになって練習させることが難しい場合が多い。生徒同士の人間関係があり、学習にも影響があるのは否めない。3年間持ち上がって、付き合いしてきた生徒たちなので、なんとか他の組に入れてもらったり、自分自身が相手になって練習したりできたが、どうしても話すのが苦手な生徒もいる。話すばかりが語学学習ではないので、他の面で評価をしなければならないと思う。

書く指導まで十分にできなかったことは今後の課題である。時間数が足りない中、授業中に書く練習をさせる暇はない。家庭学習に頼ってしまうが、生徒間の学力差が広がっていくのが現実である。少しでも練習させたかったので、1枚のワークシートを何度も集め点検し、間違えた単語は空いているところに何回も書いて提出させた。耳から覚えた英文を、今度は手で書いて覚えさせることをしなければならない。最後に自己表現力についてだが、結局日本語で言いたいことがなければ、英語でも言えないのではないかと思う。かといって、英語での自己表現を否定しているわけではない。十分に

正確なインプットを与えておこくとで、いつか「これが言いたい。」という気持ちがわいた時にアウトプットできるように知識や学力を蓄えておくことが必要なのではないだろうか。